

# 文芸

## 俳句

鞍型のポテトチップス水馬

池田 逸子

童顔の埴輪の像や青すすき

伊藤 敬子

吹く風の木立にさやぎ秋来る

伊藤 定男

亡き父も輝きたるや星月夜

今関満喜子

今日迄の思い出残す蟬の殻

魚地 照子

青墨のひそかに白ふ梅雨の雷

江森 悦子

手のひらの蟬の抜け殻捨てかねて

大谷 武彦

曼荼羅や火葬場涼し石の庭

川島 孝夫

古代連嘆くや静かな沼明り

向後 寛

母の忌の時ば経にけり蝉しぐれ

越川せつ子

金髪に浴衣が似合ふ祭かな

小松 藤男

風入れし一尺巾の梅雨月夜

佐瀬 輝夫

わんぱくが笑わす水面夏休み

宍倉 道子

どの顔もみなほころびる祭かな

玉虫 栗扇

立秋の川渡りくる風の音

土屋美枝子

盆用意寺の樹木も刈り込まれ

戸村 静華

打水に鼻緒も濡れて赤夕日

西崎さち子

木漏れ日にゆれて昼寝のハンモック

山口 一秋

秋めける菜並びたる夕の膳

山口 とし

## 短歌

「お名前ば同じは向を置きオナマエと  
玩具のオウムがわが声になふ

西山満里子

初生りのブルーベリーの熟れゆく

池田 春江

今朝も見にゆき一粒挽ぎぬ

佐藤 初音

起重機は積める荷物とためらひつ  
労れるがに降ろしゆくなり

鈴木 益郎

浅間嶺の麓を走るハイウエー

鈴木まさ子

岩紫陽花の白清清し

鈴木まさ子

初夏の薄紅色の夕焼けに

八角 三枝

乾きたる畑うるほす雨の降り

大根の種蒔かむと思ふ

川沿いに列なし植えし紫陽花の  
色を写して水の流るる

吉岡 信子

里芋の大きく広き蔓を転び

恵みの雨は根方を濡らす

青木 秀子

心配の種解決し吾の心

霧の晴れゆく思いにぬたり

赤十字の会合に古き友と会い  
話し合ひたり昔の事と

手の中に光り点滅する螢  
幼ば見よと吾を呼ばふも

駅ひとつ先に降りたる友の眼の  
笑まへる見えて電車は離る

手の中は光り点滅する螢  
幼ば見よと吾を呼ばふも

手の中は光り点滅する螢  
幼ば見よと吾を呼ばふも

手の中は光り点滅する螢  
幼ば見よと吾を呼ばふも

手の中は光り点滅する螢  
幼ば見よと吾を呼ばふも

手の中は光り点滅する螢  
幼ば見よと吾を呼ばふも

手の中は光り点滅する螢  
幼ば見よと吾を呼ばふも

手の中は光り点滅する螢  
幼ば見よと吾を呼ばふも

手の中は光り点滅する螢  
幼ば見よと吾を呼ばふも

手の中は光り点滅する螢  
幼ば見よと吾を呼ばふも

手の中は光り点滅する螢  
幼ば見よと吾を呼ばふも

手の中は光り点滅する螢  
幼ば見よと吾を呼ばふも

手の中は光り点滅する螢  
幼ば見よと吾を呼ばふも

手の中は光り点滅する螢  
幼ば見よと吾を呼ばふも

手の中は光り点滅する螢  
幼ば見よと吾を呼ばふも

手の中は光り点滅する螢  
幼ば見よと吾を呼ばふも

手の中は光り点滅する螢  
幼ば見よと吾を呼ばふも

手の中は光り点滅する螢  
幼ば見よと吾を呼ばふも

手の中は光り点滅する螢  
幼ば見よと吾を呼ばふも

手の中は光り点滅する螢  
幼ば見よと吾を呼ばふも

## こうほう博物館 18

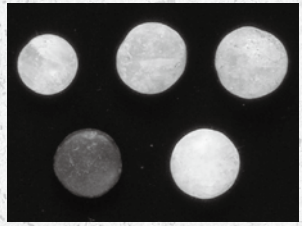
### 平安時代の基石

前回に引き続き、銚子連絡道路を建設するとき、発掘した遺跡から出土した、面白いものについて紹介しましょう。銚子連絡道路が栗山川を渡る所の左岸には、芝崎遺跡が広がっています。この芝崎遺跡は銚子連絡道路建設と栗山川改修のため、平成十二年から十六年までの四年間を要して、約四万㎡を発掘調査されました。この発掘調査によって、遺跡からは奈良・平安時代の集落跡や畑跡の他、中世の道や集落跡も検出され、特に大規模な畑跡の発見は県内では初めてで、県内外から注目されました。

芝崎遺跡の中でも栗山川に近い二軒の平安時代住居跡から、合計五点の基石が出土しました。五点のうち四点が石英製の白石、一点が珪質頁岩製の黒石で、いずれも扁平な円形に磨いて加工され、直径1cm、厚さ0.5cmで、形状・大きさから言って基石に間違いのないと思われる。

囲碁は中国で生まれ、日本には奈良時代に伝わり、平安時代には宮中や貴族の間で盛んに行われたと言われ、奈良正倉院にも碁盤と基石が納められています。つまり奈良・平安時代は、

まだ囲碁は上流階級のものであったのです。そのような囲碁の基石が、なぜ都から遠く離れた芝崎遺跡から出土したのでしょうか。それをもたらした五点です。これだけでは囲碁が出来るはずもありません。また当時は、基石の多くは加工していない小石を代用して使っていたことが、残されたものから分かっています。それならばと調査中同じ住居跡や周辺で、それらしい小石等を探したが、ついに他には見つかりませんでした。なぜ基石が五点だけ芝崎遺跡に存在したか、また単なる小石ではなく、成形加工された基石であったのかなどの疑問が残ります。芝崎遺跡では、このほか都でしかなく、ような、様々な変わったものが出ています。なぜか都との結び付きが強かったようです。正倉院に岩室郷献上の麻布があるように。



▲出土した基石